大都市およびその周辺の町の乳幼児検診の保健指導にかんする調査

園田真人　　福岡県粕屋保健所

1　調査地域の特徴

北九州市は、福岡県の北端にあり、昭和３８年に５市合併によって誕生した港湾労働都市である。人口は１０６･５万人、かって鉄鋼生産は日本一であったが、新日鉄の千葉県への移転などで大きく変容しようとしている。

福岡市は、県庁所在地であり、人口は108･8万人、商業都市として発展し、各商社、銀行などの支店も増加して、人口は増大する一方である。学園都市としても、２カ所の医科大学をもち、各大学も数多く所在している。

粕屋郡は、図に示すように、福岡市の東側に隣接しており、粕屋保健所は福岡市にある。人口は２０万人、８町があって、それぞれ特徴のある行政をおこなっている。当然ベッドタウンの性格ももっている。

2　乳幼児検診の状況

①　北九州市の出生率、乳児死亡率、周産期死亡率は年次とともに低下している。しかし、周産期死亡率は高い傾向があるので、その原因について検討中である。乳幼児検診は、かって保健所において実施していたが、母子保健事業の増加に対して、保健所医師が少ないため、北九州市方式を考えだした。これは、４、７カ月児、１歳６カ月児、３歳児について、身体的異常の診査は開業医（内科、小児科）で登録したものが担当し、その後は保健所において、養育、栄養指導をおこなうものである。これによって、４カ月児検診受診率を例にとると、３０％を８８％にのばすことができた。

②　福岡市の出生率、周産期死亡率は全国平均と同じであるが、昭和５８年の乳児死亡率は高い。これは、今後の検討を要する。乳幼児検診は、母子保健の進展にともなって方法は変化してきたが、一貫して保健所において実施している。これが可能な理由は、全国に比類のない保健所医師の充足がよいことが指摘される。乳幼児検診の受診率は、４カ月児は高いが、１歳６カ月児は低率である。１歳６カ月児の受診率が低いのは、一部を選択していたためで、統計数だけで判断すると、その実態を見落すものである。

③　粕屋郡の出生率、乳児死亡率、周産期死亡率は、全国平均と比べて特異性はない。８町を比較すると、かなり高いところもあるが、これは分母となる人口が少ないためである。乳幼児検診の実施方法は、それぞれ異なった方法であるが、大体において、開業医師の出務、町および保健所の保健婦によって、公民館などにおいて実施している。久山町では、九州大学医学部小児科教室の参加をえて実施している。８町それぞれの、乳幼児検診受診率を比較すると、かなり低いところもみられる。今後の検討を要することである。

表１　指標の年次別推移

項目	出生率			乳児死亡率			周産期死亡率		
地域	昭54	昭56	昭58	昭54	昭56	昭58	昭54	昭56	昭58
粕屋郡	16.4	15.2	14.3	6.37	10.73	8.04	13.1	11.4	8.04
福岡市	16.3	15.0	14.5	6.30	6.61	11.82	8.7	8.7	9.3
北九州市	14.4	12.9	12.5	8.50	7.10	5.90	12.1	10.0	8.4

表２　健康診査受診率

数値は％

項目	4カ月児			1歳6カ月児			3歳児		
地域	昭57	昭58	昭59	昭57	昭58	昭59	昭57	昭58	昭59
粕屋郡	71.6	76.7	76.3	76.4	80.9	80.8	74.8	74.0	70.2
福岡市	93.6	93.4	93.2	54.0	55.4	60.2	76.7	77.8	78.1
北九州市	88.4	88.8	88.1	68.0	73.9	74.0	55.7	55.7	57.1

3　乳幼児検診の評価の調査

前回の調査では、粕屋郡内の４町について、１歳６カ月検診に来所したものを調査したが、今回は８町すべてと、北九州市八幡西保健所と福岡市中央保健所に来所したものについて調査した。調査対象は合計６４９名である。調査方法は、前回調査と同じ調査用紙を作成し、現在の健康状態、家族の状況、父母の年令、母親の職業の有無、祖父母の同居、乳児期栄養法、離乳の状況、育児知識の導入源、４カ月，７カ月検診の受診と評価、１歳６ケ月検診の評価および今後の検診に対する希望について記入させた。回収率は９８％である。

4　調査成績と考察

①　調査対象の母親の平均年令は、北九州市２９.０±３.２５、歳、福岡市２９.７±４.２７歳粕屋郡２９.８±３.７５歳であり、地域差はない。

②　現在の健康状態は、健康だというものは北九州市７４.８％、福岡市７７.０％、粕屋郡７７.２％で差はない。異常がある項目は、下痢、便秘、発熱しやすい、感冒になりやすいというものであり、重大な欠陥をしめすものは、認められない。

③　祖父母と同居しているものは北九州市１２.０％、福岡市１５.０％粕屋郡３５.６％であり、粕屋郡の同居する率は、北九州市、福岡市より高い。粕屋郡の８町をくらべると、地域差は著明である。

④　母親が職業をもっている比率は（表４）、北九州市１５.８％、福岡市１８.０％、粕屋郡２０.１％である。祖父母との同居の率と比べると興味ある傾向がみられる。粕屋郡の母親は、祖父母と同居して、職業をもっており、北九州市、福岡市のパタンとは異なっている。職業の主なものは、家業、常勤、パート、その他の順位をしめしているのが特徴である。

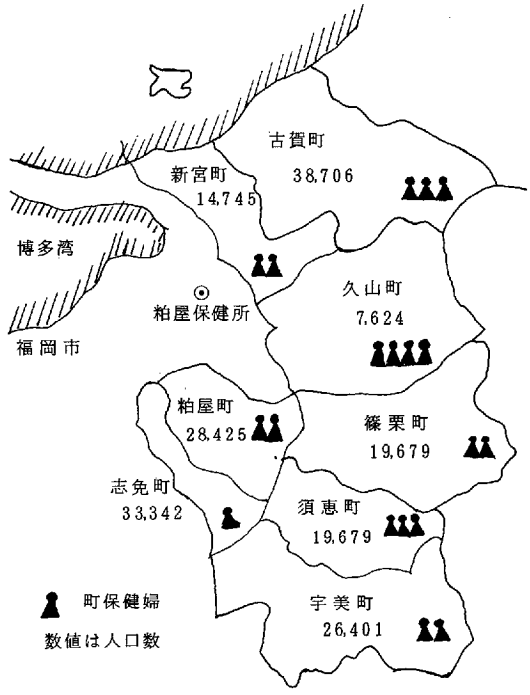

図１　福岡県粕屋保健所管内の分布状況

表３　日中の主な保育者（粕屋郡）　（　）は百分率

日中の保育者	母親、職業あり	母親、職業なし
父	１（　１.２）	１（　０.３）
母	２４（２７.９）	３３３（９１.５）
祖　父	３（　３.５）	７（　１.９）
祖　母	３２（３７.２）	２０（　５.５）
その他	２６（３０.２）	３（　０.８）
計	８６（１００.０）	３６４（１００.０）

表４　母親が職業をもっている率　（　）は百分率

地域＼項目	職業あり	職業なし	計
粕屋郡	８８　(２０.１)	３５０　(７９.９)	４３８（１００.０）
福岡市	１８　(１８.０)	８２　(８２.０)	１００（１００.０）
北九州市	１８　(１５.８)	９６　(８４.２)	１１４（１００.０）

表５　乳児期栄養法の分布　（　）は百分率

地域＼栄養法	母乳	混合	人工	計
粕屋郡	２２５（４６.６）	１５２（３１.５）	１０６（２１.９）	４８３（１００.０）
福岡市	４２（４４.２）	３４（３５.８）	１９（２０.０）	９５（１００.０）
北九州市	４１（３８.０）	４８（４４.４）	１９（１７.６）	１０８（１００.０）

⑤　日中の主な保育者は（表３）、粕屋郡では、母親が職業をもっているものは、祖父母、その他、母の順位であり、母親が職業をもっていないものは、母親が大部分を占めている。北九州市、福岡市においても同様である。

⑥　乳児期栄養方法の分布は（表５）、北九州市、福岡市、粕屋郡ともに同様である。福岡市と粕屋郡では、人工栄養のものは、母乳栄養のものに比して離乳がうまくいかなかったものが多いが、北九州市では認められない。離乳開始の時期は、北九州市5.3 ± 1.4 7月、福岡市4.7 ± 1.4 1月、粕屋郡5.0 ± 1.6 6月であり地域差はない。母親の職業の有無別に離乳開始の時期をくらべると、職業ありというもの5.0 ± 1.4 6月、職業なしのもの5.3 ± 1.6 6月であり、差はない。しかも、全体としてみると離乳開始の時期は適当だといえる。

⑦　離乳知識の導入源は（表８）、福岡市、粕屋郡は、書籍、医療従事者の順位であり、北九州市は医療従事者が一位を占めている。離乳知識の導入源別によくわかったという比率は、差をみ出しがたい。離乳の経過と知識導入源との関連は、表６に示すように、みとめられない。

⑧　育児について、現在困っているというものは１8.4％であり、内容は、食事、発育、ゆびしゃぶり、夜泣く、排尿についてという項目が上位を占めている。育児について困ったときに、相談する相手は、粕屋郡は、祖父母との同居の有無にかかわらず、母、姉が多く、友人、知人がその次である。都市部では医師、知人、友人が上位をしめており、母、姉の比重は低くなる。

⑨　本調査対象の４，７カ月検診受診率は、北九州市８８.９％、福岡市８０.０％、粕屋郡８２.７％であり表２の受診率を比較すると、差をみとめる。この要因については、今後の検討を要する。母親が職業をもつものと、職業をもっていないもの別に受診率をくらべると、北九州市、福岡市ともに差をみとめない。しかし、粕屋郡の８町別に比較すると、１町において、母親の職業があるものの受診率は２８.６％、無職のものでは、５６.５％であり、差をみとめる。

⑩　４，７カ月検診に対する評価（表９）はよいというものは、北九州市５０.５％、福岡市５１.２％、粕屋郡３４.２％であり、やや粕屋郡の比率は低い。育児について困ったことが有無別に、４，７カ月検診に対する評価をくらべると、両者にまったく差をみとめない。４，７カ月検診に対して、不満であったという理由は、検診が簡単すぎる、説明が不十分、時間がかかるというものである。

表６　離乳知識の導入源

（　）は百分率

導入源＼離乳	順調		順調でない	
母、姉妹	51	(14.5)	6	(8.1)
書籍	130	(37.0)	24	(32.4)
医療従事者	74	(21.1)	17	(23.0)
友人・知人	40	(11.4)	12	(16.2)
その他	42	(12.0)	6	(8.1)
答なし	14	(4.0)	9	(12.2)
計	351	(100.0)	74	(100.0)

表７　本調査の４，７カ月検診の受診率

地域＼職業	母の職業あり	職業なし	平均
粕屋郡	80.7％	82.9％	82.7％
福岡市	81.2％	78.8％	80.0％
北九州市	88.2％	89.6％	88.9％

表８　離乳知識の導入源と理解できた率

数値は％

項目＼地域 導入源	導入源の分布			よくわかったという率		
	粕屋郡	福岡市	北九州市	粕屋郡	福岡市	北九州市
母、姉妹	15.2	13.9	5.5	93.5	100.0	71.4
書籍	38.1	40.7	29.1	90.3	90.9	83.8
医療従事者	21.6	27.8	48.0	99.0	96.7	95.1
友人・知人	11.8	1.9	7.9	93.7	50.0	80.0
その他	4.9	7.4	0.8	100.0	87.5	100.0
答なし	8.4	8.3	8.7	—	—	—
計・平均	100.0	100.0	100.0	94.3	93.5	89.8

⑪　1歳6カ月検診の周知方法は、表10に示すように、北九州市、福岡市、粕屋郡がそれぞれ異なった分布を示している。このことは、地方自治体が、それぞれの地域に適合した方法で乳幼児検診を実施しているということになる。

しかし、個人通知という方法は、確実な一面をもっているが、経費がともなのうで、人口の増加する地域では、大きな課題である。

⑫　1歳6カ月検診に対する評価は、表11に示すように、よかったというものは、北九州市49.5%、福岡市55.6%、粕屋郡44.3%であり、全体としても、母親の評価は高いといえる。福岡市において、不満足というものがまったくないことは、注目される。1歳6カ月検診を育児で困っていることの有無別にくらべると、差はない。

4，7カ月検診と1歳6カ月検診の評価の関連をみると、表13のように、4，7カ月検診がよかったというグループほど、1歳6カ月検診の評価が高いことは、注目される成績である。

（小括）

本調査における大都市および周辺の町の乳幼児検診は、それぞれの地域の特性に応じた方法で実施し、受診率も高いレベルを維持しており、4，7カ月検診の評価が高いものほど、1歳6カ月検診の評価も高く、定着した観がある。しかし、この状態に満足することなく、問題点をみつけ、さらに改善していくことが大切である。その点、各自治体では、検討会、反省会がもたれ、努力を続けられていることは、喜ばしいことである。

注目されるのは、大都市も周辺の町も、意外に核家族化が進んでいることである。これに対応した、育児知識の導入、保健指導の具体的な方法が必要になってくる。

表9　4，7カ月検診の評価　（　）は百分率

地域＼評価	よかった	普通	不満足	答なし	計
粕屋郡	131 (34.2)	194 (50.7)	5 (1.3)	53 (13.8)	383 (100.0)
福岡市	42 (51.2)	37 (45.1)	0 (0.0)	3 (3.7)	82 (100.0)
北九州市	56 (50.5)	43 (38.7)	2 (1.8)	1 (0.9)	111 (100.0)

表10　1歳6カ月検診の周知の理由　（　）は百分率

地域＼理由	市・町だより	個人通知	その他	計
粕屋郡	247 (52.2)	220 (46.5)	6 (1.3)	473 (100.0)
福岡市	4 (4.0)	92 (93.0)	3 (3.0)	99 (100.0)
北九州市	63 (55.6)	7 (6.2)	43 (38.1)	113 (100.0)

表11　1歳6カ月検診の評価　（　）は百分率

地域＼評価	よかった	普通	不満足	答なし	計
粕屋郡	187 (44.3)	184 (43.6)	4 (0.9)	47 (11.1)	422 (100.0)
福岡市	55 (55.6)	43 (43.4)	0 (0.0)	1 (1.0)	99 (100.0)
北九州市	55 (49.5)	52 (46.8)	3 (2.7)	1 (0.9)	111 (100.0)

表12　困ったことの有無別の1歳6カ月検診の評価　数値は%

地域	評価	よかった	普通	不満足	答なし	計
粕屋郡	困ったこと有	37.8	43.3	1.1	17.8	100.0
	なし	47.4	44.9	0.9	6.8	100.0
福岡市	困ったこと有	76.5	23.5	0.0	0.0	100.0
	なし	51.2	47.6	0.0	1.2	100.0
北九州市	困ったこと有	45.5	42.4	9.1	3.0	100.0
	なし	51.3	48.7	0.0	0.0	100.0

表13　4，7カ月検診と1歳6カ月検診の評価

4.7カ月＼1歳6カ月	よかった	普通	不満足	答なし	計	よかったという率
よかった	94	20	0	5	119	79.0%
普通	56	124	3	25	208	26.9%
不満足	0	4	1	0	5	0.0%
答なし	26	23	0	4	53	49.1%

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

（小活）

本調査における大都市および周辺の町の乳幼児検診は、それぞれの地域の特性に応じた方法で実施し、受診率も高いレベルを維持しており、4,7ヵ月検診の評価が高いものほど、1歳6ヵ月検診の評価も高く、定着した観がある。しかし、この状態に満足することなく、問題点をみつけ、さらに改善していくことが大切である。その点、各自治体では、検討会、反省会がもたれ、努力を続けられていることは、喜ばしいことである。

注目されるのは、大都市も周辺の町も、意外に核家族化が進んでいることである。これに対応した、育児知識の導入、保健指導の具体的な方法が必要になってくる。